

2013年7月22日 全2頁

中国：貸出金利下限撤廃、金利低下は限定的

次のステップは預金金利の上限引き上げ

経済調査部
シニアエコノミスト 齋藤 尚登

[要約]

- 中国人民銀行は7月20日以降、貸出金利の下限を撤廃した。ただし、個人の住宅ローン金利の下限は基準金利の0.7倍で変わらない。今回の措置は金利自由化に向けた大切な一歩であるが、貸出金利の下限が撤廃されたからといって、金利が大きく下がるわけではない。当然のことながら、貸出基準金利を引き下げたり、窓口指導で貸出基準金利を下回る貸出のウエイトを高める方が、金利低下効果は遥かに大きい。
- 中国の金利自由化の次の一手は、預金金利の上限引き上げである。預金金利は長らく固定金利であったが、2004年10月に基準金利を下回る金利設定が可能になり、2012年6月になってようやく上限が基準金利の1.1倍に引き上げられた経緯がある。中国には預金保険制度が存在せず、金融機関の破たん処理法なども未整備である。次の一手に進むには、こうした制度的な金融インフラの整備が不可欠であり、そのタイミングは慎重に計られよう。

貸出金利の下限を撤廃

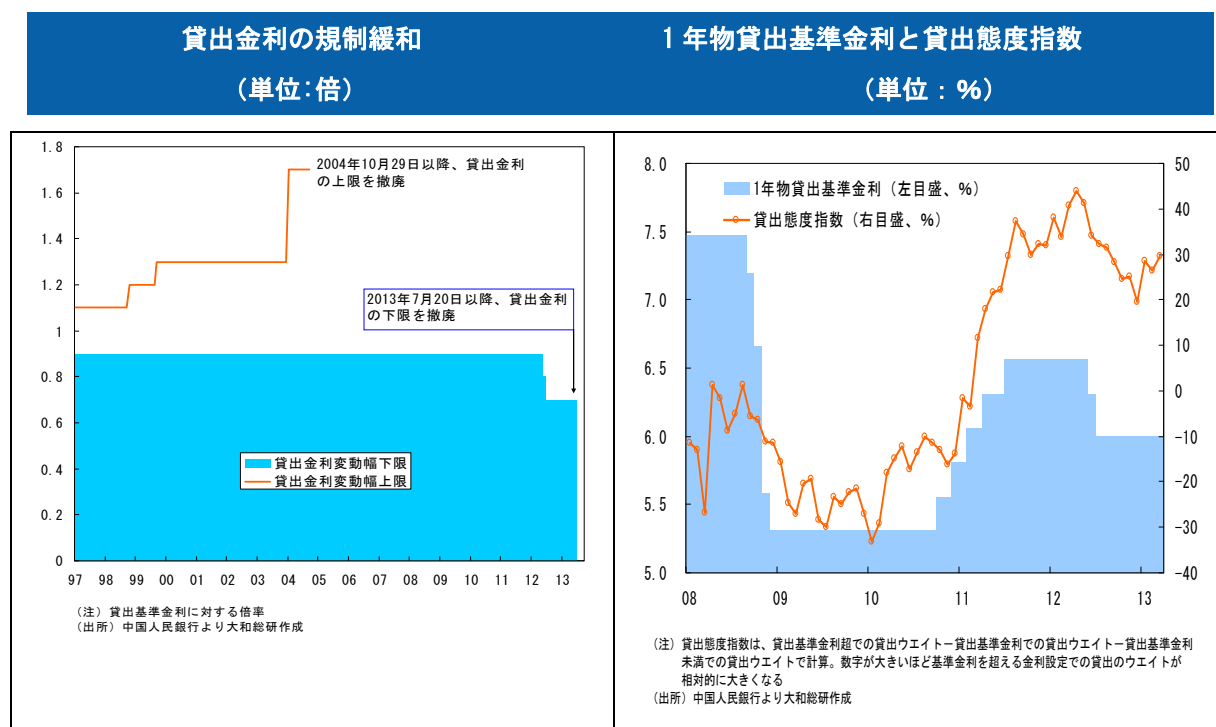
中国人民銀行は7月20日以降、貸出金利の下限を撤廃した。ただし、個人の住宅ローン金利の下限は基準金利の0.7倍で変わらない。

中国の金利自由化は、「マネーマーケットと債券市場が先、預金と貸出が後」、預金金利と貸出金利については、「貸出が先、預金が後」、「長期と大口が先、短期と小口が後」という原則に従って、段階的に実施されている。まずは自由化しても金融システムへの影響の小さい分野から着手し、後に影響が大きい分野に踏み込むという戦略である。

貸出金利の上限は、1998年10月に従来の基準金利の1.1倍から1.2倍に、1999年9月に1.2倍から1.3倍に、2004年1月に1.7倍に拡大された後、2004年10月には上限そのものが撤廃された。下限は基準金利の0.9倍という水準が続いたが、2012年6月に0.8倍に、7月には0.7倍に引き下げられた。今回は、この下限そのものが撤廃されたのである（現時点の1年物貸出基準金利は6.0%）。

中国人民銀行は、貸出金利の下限撤廃により、「貸し手と借り手の間で利率設定に関する協

議の空間が広がり、金融機関の金利設定の自由度が増し、企業の資金調達コストが低下する」としている。今回の措置は金利自由化に向けた大切な一歩であるが、貸出金利の下限が撤廃されたからといって、金利が大きく下がるわけではない。当然のことながら、貸出基準金利を引き下げたり、窓口指導で貸出基準金利を下回る貸出のウェイトを高める方が、金利低下効果は遥かに大きい（下右図参照）。



中国の金利自由化の次の一手は、預金金利の上限引き上げである。預金金利は長らく固定金利であったが、2004年10月に基準金利を下回る金利設定が可能になり、2012年6月になってようやく上限が基準金利の1.1倍に引き上げられた経緯がある（現時点の1年物預金基準金利は3.0%、上限は3.3%）。中国には預金保険制度が存在せず、金融機関の破たん処理法なども未整備である。次の一手に進むには、こうした制度的な金融インフラの整備が不可欠であり、そのタイミングは慎重に計られよう。

以上